

信州大学高大連携 異文化理解特別授業

1月17日、信州大学教育学部より小池浩子先生をお呼びして、異文化理解の特別授業を2年生の国際教養科対象に行いました。

先生からは、冒頭異文化教育が世界規模で行われ、ユニセフと国連大学が後援する開発教育 DEAR (Development Education) についての紹介がありました。また世界的に広がっている環境教育についての紹介とそれに引き続いて、ワークショップの時間となりました。

スウェーデンの17歳グレタ・トゥーンベリさんが世界に警鐘を鳴らしている今、同じ年齢の高校生は、環境問題に対して、どのような見解や行動を起こしているのかを、5、6人の小グループで話し合い、その結果を報告した。

生徒たちからは、今や一般化したエコバックの使用、プラスチックゴミの海洋汚染、温暖化による多くの異常気象、自然破壊の現状等が報告されました。

まとめに、先生からは、Think Globally、Act Locally(シンク・グローバリー、アクト・ローカリー)。「地球規模で考え、足元から行動せよ」のことばの説明がありました。また、異なる文化背景が引き起こすトラブルの例についての話もありました。他人の家に招かれて、冷蔵庫を覗きみるのが親密さの現れとみる国と、それを非礼と感じる国。ちょっとした意識の違いの差が、偏見を呼び、ひいては国際問題にまで発展する危機など、相手の国の考え方と文化背景をきちんと知ることの意義が語られました。

